

科目名称	アジアのデザイン／芸術工学B（アジアンデザイン）		授業コード	10004462	
担当教員	長野 真紀	山之内 誠、高 台泳、藤田 治彦			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	芸術工学基礎／芸術工学
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業
遠隔の場合の主なツール	Stream 配信
履修制限等	2015年度以降入学生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>アジアのデザインの特徴、原理を把握するため、国や地域ごとの特色を理解し、それぞれの違いや共通点を的確に判断できるようになる。</p> <p>(1)アジアの多様性と共通性について説明できるようになる。</p> <p>(2)アジアの地域的特色、地域的共通性(類似性)について少なくとも3ヶ所以上説明できるようになる。</p>
授業の概要（内容）	<p>アジアでは豊かな自然に根ざした生命力あふれる多くの造形、生活文化がつくりだされ、古くからの伝統に根ざした共通の基盤を共有しながら相互に影響しあい、多様な地域性を形づくり、西欧とは異なる独自のデザインや造形的世界をうみだしてきた。アジアに生きる日本もけっして例外ではない。この授業ではアジア各地にみられるデザインの多様な世界をさぐり、その意味と原理について概説する。授業は4名の教員で分担し、いくつかの国、地域の事例を紹介しながら進める。</p>
授業計画	<p>1：オリエンテーション、アジアの風土と生活の諸相 [長野]</p> <p>2：アイヌの暮らしと伝統的デザイン [長野]</p> <p>3：沖縄の建築と祭事 [長野]</p> <p>4：台湾(1) 民族と住まいのかたち [長野]</p> <p>5：台湾(2) 日本文化と島の生活 [長野]</p> <p>6：マレー半島のプラナカン文化 [長野]</p> <p>7：Encyclopedia of East Asian Design [藤田]</p> <p>8：アジアの造形教育の歴史と現在 [藤田]</p> <p>9：東アジアの建築とデザイン [藤田]</p> <p>10：東アジアの都市と宮殿 [山之内]</p> <p>11：中国・台湾の伝統的な住まい [山之内]</p> <p>12：韓国の伝統的村落と寺院建築 [山之内]</p> <p>13：韓国の伝統芸術における美意識 [高]</p> <p>14：北朝鮮の社会と芸術 [高]</p> <p>15：北朝鮮の生活とデザイン [高]</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	日頃からアジア的なもの（デザイン）に注意を向け、観察しておくこと
評価方法	担当教員が毎回課すレポートの内容をもとに評価する。授業（レポート提出）回数の3分の2以上の出席（提出）をもって評価対象とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	各教員の担当終了後、全体の講評をポータルで連絡する。
使用テキスト	毎回プリントを配布する。
参考テキスト・URL	その都度指示する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	サウンド・デザイン論	授業コード	20001705		
担当教員	尹 智博				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	芸術工学基礎（基礎教育）
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業
遠隔の場合の主なツール	Teams、初回連絡はKDUポータル、授業動画はStream、レポート提出はForms
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p>授業の目的 デザインやアートを多角的に読み解く力を習得する。</p> <p>到達目標 音をデザインやアートの制作手法のひとつと考える力が身に付く。</p>
授業の概要（内容）	<p>古代より音は哲学探求のひとつとして扱われ、後に様々な音を紡ぐ事で音の関係性が構築され、音楽学が誕生した。音楽学の歴史はその音の関係性の変遷であり、その変遷は常に社会の影響を受けていた。</p> <p>この様に、音楽は社会との関係性を媒介としていた事から、音楽芸術が「デザインやアート」などの造形芸術との関係性でも語られる事があった。本講義では、デザインまたアートとして音を追求した様々な作品や事象を取り上げ、「サウンド」を「デザインする」という事について多角的に学習し、社会を通して見た、ひとつの現代デザインを読み解く力を身につける。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：イントロダクション・音を考える 2：音を奏でる 3：楽器について 4：西洋音楽のはじまり 5：近代までの音楽 6：近代までの美術 7：近代の音楽 8：重力と調性 9：コンピュータ・ミュージック 10：零度の音楽 11：アートと音楽Ⅰ 12：アートと音楽Ⅱ 13：バレエと音楽 14：総括 15：最終課題
実務経験のある教員	
授業時間外学習	各講義の復習を行うこと
評価方法	計13回の小レポート課題（78%）と、最終課題のレポート（22%）の合計点で評価する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	
使用テキスト	適宜、配布する。
参考テキスト・URL	適宜、紹介する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	映像技術入門 ①②			授業コード	10001360
担当教員	槌橋 雅博				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	芸術工学基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	映像表現、特に映画製作における様々な技術・手法の基本事項を理解し、自己作品の創作に活用できるようにする。
授業の概要（内容）	映画のプリプロダクション、プロダクション、ポストプロダクションの基本作業内容を解説し、様々な映像創作技術の基礎と用語について説明する。必要に応じて、技術見本や優れた表現の映像を映写し、機材使用法や各種技術の具体的な解説を行う。
授業計画	1： 映画製作業務の概要 2： 各部署とスタッフの仕事内容 3： 撮影技術の基礎：画角の種類と特性 4： レンズの特性とカメラワークの基礎 5： 特機技術と移動撮影の基礎 6： 照明技術の基礎 7： 録音・整音技術の基礎 8： 映画文法の基礎 9： 物語創作技術の基礎 10： 脚本の基本構造と登場人物設定 11： シーンの組み立てと演出の基礎 12： 美術・衣装技術の基礎 13： 編集・仕上げの基礎 14： 演出の実践 15： 複合的映画製作技法
実務経験のある教員	映画監督、プロデューサー、脚本家、撮影・録音・照明・編集技師、作曲家、ジャズミュージシャンとしての実務経験を活かし、映画製作のあらゆる領域に関して、それらの技術の本質を教授する。
授業時間外学習	各回の授業後、各自で授業内容をまとめ、復習に励むこと。受講期間中、様々な映画を個々に鑑賞し、授業で学んだ映画製作技術を逐次確認することが望ましい。
評価方法	授業で学習した各種の映像製作技術に関する知識を用いて創作する、課題作品とレポートによる評価
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業終了後、全体的な講評・模範解答等を、メール・印刷配布・掲示等で開示する。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	『タルコフスキイの映画術』 アンドレイ・タルコフスキイ著 水声社 『映画の教科書』 ジェームズ・モナコ著 フィルムアート社 『シナリオ構造論』 野田高梧著 フィルムアート社 『世界名作映画絵コンテ図鑑』 フィオヌラ・ハリガン著 スペースシャワーネットワーク社 『7つの夢』 セルゲイ・パラジャーノフ著 ダゲレオ出版 上記の他、授業中に随時紹介します。
各自準備物	筆記用具等
実習費	
その他	「映像コンテンツ論」を受講する学生は、本授業を履修しておくことを推奨する。

科目名称	映像コンテンツ論			授業コード	10001370
担当教員	槌橋 雅博				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	芸術工学基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	作品主題を効果的に映像コンテンツ化する様々な方法論を学習し、自己作品の創作に活用できるようにする。
授業の概要（内容）	世界的巨匠と呼ばれる映画監督達が、作品の根幹をなす「主題」を、如何にビジュアル化して映画を創造してきたのか。各回授業で彼らの作品を映写して、その様々な表現手法を、創造者の見地から微細に解説し、映像コンテンツ化の具体的技術と実践理論を教授する。授業の前半で映画を1本鑑賞し、後半に当該作品の表現手法・創作技術・背景哲学等について、解説を行う。
授業計画	1：放浪紳士の真心と悲哀のサイレント映像コンテンツ 2：男女関係の綾と社会地位の対比的トーキー映画映像コンテンツ 3：地位の異なる人間が危険を共有して生じるドラマの映像コンテンツ 4：教訓譚の基本形となる日本的映像コンテンツ 5：矛盾を抱える人間本性の自然主義的映像コンテンツ 6：サスペンスと人間心理が混交する巧妙な映像コンテンツ 7：密室で頭となる様々なジレンマの映像コンテンツ 8：家族間の倫理的問題を提起する構成的映像コンテンツ 9：芸術家の理想と現実の乖離を表す娯楽的芸術映像コンテンツ 10：理想と現実を調停する叙情的映像コンテンツ 11：文明の根底に潜む破壊性の寓話的映像コンテンツ 12：信仰に基づく対立と融和の静謐なる映像コンテンツ 13：無神論に基づく神と人間の対立的映像コンテンツ 14：現代人の苦悩と芸術哲学に基づく融和的人間像の映像コンテンツ 15：人間の潜在的可能性を提示する映像コンテンツ
実務経験のある教員	映画監督、プロデューサー、脚本家、撮影・録音・照明・編集技師、作曲家、ジャズミュージシャンとしての実務経験を活かし、映画創作のあらゆる領域に関して、その具体的手法・根幹哲学を教授する。
授業時間外学習	各回の授業後、各自で授業内容をまとめ、復習に励むこと。受講期間中、授業で取り上げた監督達の他の映画をできるだけ多く鑑賞し、授業で学んだ演出技法・創作哲学を逐次確認することが望ましい。
評価方法	授業で学習した映像コンテンツ化技法に関する知識を基盤として制作する課題作品とレポートによる評価。
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業終了後、全体的な講評・模範解答等を、メール・印刷配布・掲示等で開示する。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	『映像のポエジア』 アンドレイ・タルコフスキー著 キネマ旬報社 『バルイマンは語る』 イングマル・バルイマン 著青土社 『小津安二郎全発言』 田中眞澄編 泰流社 『定本映画術ヒッチコック・トリュフォー』 A・ヒッチコック、F・トリュフォー 著晶文社 『権力の意志』 フリードリヒ・ニーチェ著 筑摩書房 『知覚の現象学』 モーリス・メルロ＝ポンティエ著 みすず書房 『千のプラトール』 ジル・ドゥルーズ、フェリックス・ガタリ著 河出書房新社 『Truths: A Stream』 槌橋雅博著 アート・オブ・ウイズ
各自準備物	筆記用具等
実習費	
その他	同時、または事前に、「映像技術入門」「身体表現論」を履修することを推奨する。

科目名称	音響メディア制作演習 I / 音響制作演習 I			授業コード	10060720
担当教員	赤澤 聡	天宮 遥			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標 (学習成果)	音響メディアの制作過程を把握理解し、その基礎的な制作技術を身に付ける。
授業の概要 (内容)	音響「音」を中心軸に置き、マス・コミュニケーション・メディアにおける表現の基礎についての講義と演習。具体的には、放送メディアの構成・脚本・演出・録音・編集、及び各メディアに使用する「音楽」についての制作論及び演習を行う。各場面において出演者としての演習も行う。制作物として、番組制作(ラジオ)・オリジナル音楽・音声ドラマを制作する。映像・アニメーション・まんが表現をはじめとして様々なクリエイティブ表現において、音声・音楽の要素は大きくその表現方法を取得することは重要。演習はコントロールルーム(レコーディングスタジオ)にて行う。スタジオの基本的な使い方もマスターする。
授業計画	1: イントロダクション/マス・コミュニケーション・メディア概論 2: 制作演習における総合テーマとクリエイティブコンセプトを考案 3: 放送番組の制作概論 4: 音響機材の基礎・セッティング(コントロールルーム・スタジオの使い方) 5: 音響機材の基礎・操作方法(コントロールルーム・スタジオの使い方) 6: 放送番組の制作演習 企画方法・構成台本の書き方・ドラマ脚本の書き方 7: 放送番組の制作演習 演出ディレクションの方法・出演者としての在り方(天宮) 8: 放送番組の制作演習 音楽番組・トーク番組の録音方法 9: 放送番組の制作演習 ドラマ番組の録音方法 10: オリジナル音楽・テーマ音楽・CM音楽の概論と制作演習 作曲作詞の方法(天宮) 11: オリジナル音楽制作の具体的内容企画会議(天宮) 12: オリジナル音声ドラマ制作の具体的内容企画会議 13: 企画プレゼンテーション 14: 制作物の確定 15: 前期講評
実務経験のある教員	放送業界で30年以上のキャリアがあり、数多くのラジオ番組のディレクション(民間放送各社がおこなう賞の受賞を多数有す)と音楽制作を行ってきた担当教員が、その経験を生かし、特に映画制作、アニメーション制作、ラジオドラマ等に関わる音響関係のディレクション、録音、効果、CD制作等を、プロの視点から、実践的に指導する。 また、音楽家(ピアニスト・作曲作詞者)、様々な音楽制作物ディレクターとしてのキャリアを持つ担当教員が、より具体的に実践指導する。 また、各回 ラジオ放送及びレコーディングでサウンドエンジニアとして仕事をしている技術者を帯同する。
授業時間外学習	実際の放送番組・音楽CDの名作から最新作品までを、制作サイドの視点に立ち、関心を持ち聞いて見るのが重要。
評価方法	実習への取り組み、成果物で評価する。出席が2/3に満たない場合はE評価とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	制作演習を行う授業回では、現実の制作現場の視点に立ち、良かった部分・改善すべき部分を個々にコメントする。
使用テキスト	オリジナルテキストの配布。
参考テキスト・URL	赤澤制作事務所 YouTube https://www.youtube.com/watch?v=zV7BxA4of6A https://www.youtube.com/watch?v=w9cZQrgoW94&t=142s
各自準備物	適宜授業内で指示する。
実習費	
その他	履修制限として15名上限(学年及び学科は問わず)。履修希望者が多数の場合、面談等で決定する。後期授業「音響制作演習Ⅱ」を続けて履修することが必須となる。前期のみ、後期のみという履修は不可とする。2018年度以前入学生において、この科目の単位修得は、まんが表現学科専門科目(他学科生は自由区分)扱いとなるので注意すること。 ※2018年度以前科目名称:音響メディア制作演習 I

科目名称	音響メディア制作演習Ⅱ／音響制作演習Ⅰ			授業コード	20060730
担当教員	赤澤 聡	天宮 遥			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	選択
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	音響メディア制作物であるオリジナル音楽・音声ドラマ番組・トーク番組を完成品まで仕上げる制作技術を身に付ける。
授業の概要（内容）	前期授業「音響制作演習Ⅰ」に引き続き、音響「音」をメインテーマに、マス・コミュニケーション・メディアにおける表現を演習する。前期で習得した基礎を応用して、オリジナル音楽・ドラマ番組・トーク番組の制作を行い作品として完成物を仕上げる。また演習で使用するコントロールルーム（レコーディングスタジオ）の基本的な使い方も習得する。
授業計画	1：オリジナル音楽の制作（作詞）（天宮） 2：オリジナル音楽の制作（作曲）（天宮） 3：オリジナル音楽のレコーディング（リハーサル）（天宮） 4：オリジナル音楽のレコーディング（本番・録音） 5：オリジナル音楽のレコーディング（本番・録音） 6：オリジナル音楽のレコーディング（編集） 7：音声ドラマ番組の制作（脚本・演出） 8：音声ドラマ番組のレコーディング（リハーサル） 9：音声ドラマ番組のレコーディング（本番・録音） 10：音声ドラマ番組のレコーディング（編集） 11：トーク番組の制作（脚本・演出） 12：トーク番組のレコーディング（リハーサル） 13：トーク番組のレコーディング（本番・録音） 14：マス・メディアにおけるプロモーションの方法 15：成果物の完成／後期講評
実務経験のある教員	放送業界で30年以上のキャリアがあり、数多くのラジオ番組のディレクション（民間放送各社がおこなう賞の受賞を多数有す）と音楽制作を行ってきた担当教員が、その経験を生かし、特に映画制作、アニメーション制作、ラジオドラマ等に関わる音響関係のディレクション、録音、効果、CD制作他を、プロの視点から、実践的に指導する。 また、音楽家（ピアニスト・作曲者）、様々な音楽制作物ディレクターとしてのキャリアを持つ担当教員が、より具体的に実践指導する。 また、各回 ラジオ放送及びレコーディングでサウンドエンジニアとして仕事をしている技術者を帯同する。
授業時間外学習	実際の放送番組・音楽CDの名作から最新作品までを、制作サイドの視点に立ち、関心を持ち聞いて見ることが重要。
評価方法	実習への取り組み、成果物で評価する。出席が2/3に満たない場合はE評価とする。
課題・試験に対するフィードバックの方法	制作演習を行う授業回では、現実の制作現場の視点に立ち、良かった部分・改善すべき部分を個々にコメントする。
使用テキスト	オリジナルテキストの配布。
参考テキスト・URL	赤澤制作事務所 YouTube https://www.youtube.com/watch?v=zV7BxA4of6A https://www.youtube.com/watch?v=w9cZQrgoW94&t=142s
各自準備物	適宜授業内で指示する。
実習費	
その他	前期授業「音響制作演習Ⅰ」の単位取得者のみ履修可能。 2018年度以前入学生において、この科目の単位修得は、まんが表現学科専門科目（他学科生は自由区分）扱いとなるので注意すること。 ※2018年度以前科目名称：音響メディア制作演習Ⅱ

科目名称	グレートフィルムズ批評演習／グレートフィルムズ		授業コード	20001561	
担当教員	槌橋 雅博	谷岡 一郎			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	芸術工学基礎
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業 吉武記念ホールで映画を鑑賞した後に、8216 教室で議論を行う。
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	授業運営の関係から、履修者数の上限を 20 名程度とするので、これを超えた場合は初回の授業時に調整する。したがって、初回の授業には必ず出席すること。
授業の目的と到達目標（学習成果）	映画作品の主題や表現に対して独自の解釈を行い、それを的確に口頭で発表する能力、さらに、相手の意見をよく理解し、それに対して意見を述べるコミュニケーション能力を身につける。 具体的には （1）自らの知識と判断力を持ち良い、作品の主題を適切に読み取り、また、様々な表現方法を微細に分析・評価する。 （2）「～と思う」、「～と感じる」と述べるのではなく、「～」の根拠を示すことを議論を通じて修得する。 （3）相手の主張をよく聞き、相手の意見を評価することを議論を通じて学ぶ。 共通の土台である映画作品を通じて、自分の意見を説明し、対話・議論をおこない、作品に対する分析を深め、最終的には、誰もが納得できる論証を行う、この一連のステップを身に付けることが本授業の目標である。
授業の概要（内容）	二十世紀は映像の時代だといわれる。そして、この世紀を通じて中心的に活躍したメディアは映画であった。今や百数十年の歴史の中で生み出されたおびただしい数の映画が存在している。もはや、人生のすべての時間を映画鑑賞に費やしてもすべての映画を見ることはできないほどである。それは世界遺産に匹敵する膨大な資料であり、芸術であり、技術であり、そして娯楽である。それら幾多の映画作品の中にマイルストーンをなす傑作がいくつもあつた。そうした映画についてじっくりと議論することが本講義の概要である。
授業計画	映画は多数の表現者・技術者が、共同して制作を行うメディアであるが、その頂点に立ち、作品の全てに責任を負うのが監督である。今年度は、二人の巨匠映画監督、スタンリー・キューブリックとチャーリー・チャップリンの作品を素材として議論を行う。 1. 「非常の畏」 キューブリック監督 1955 年 67 分 若き日のキューブリック監督が、原作・撮影・編集・製作も行なっている長編第 2 作。ギャング・ボクサーの男・歓楽街の女が巻き起こす事件・愛という、フィルム・ノワールのクリシェを、独自の表現に纏め上げようとする意欲が垣間見える。スタイリッシュな初期作品。 2. 「サーカス」 チャップリン監督 1926 年 72 分 チャップリン監督が、主演・脚本(原作)・編集・製作も行なっている長編サイレント映画。1969 年に、チャップリン作曲・歌唱のサウンドトラックが追加されたトーキー版が製作された。チャップリン演じる放浪紳士がサーカス一座に雇われ人気者となるが、座長の継娘に恋心を抱いたことからドラマが生まれる。滑稽さと深い感情の融和が秀逸。 3. 「博士の異常な愛情」 キューブリック監督 1963 年 95 分 ピーター・ジョージ（ブライアント）の核戦争物 SF 小説「破滅への二時間」を、ブラックコメディに翻案した作品。キューブリック監督は脚本も共作している。主演俳優ピーター・セラーズの名演技と即興が見もの。地球を滅亡させる最終兵器を手にした人類の狂気を、軽妙なタッチとリアリティーで描く問題作。 4. 「モダン・タイムス」 チャップリン監督 1936 年 87 分 チャップリン監督が、主演・脚本(原作)・音楽・編集・製作も行なっている、サイレント・スタイルのトーキー映画。世界恐慌後に大不況となったアメリカで、資本家と機械に抑圧されながら働く工場労働者のチャップリンが孤児の少女と出会い、二人で生き延びるために行う様々な努力を、快活に描く近代社会批判コメディ。 5. 「2001 年宇宙の旅」 キューブリック監督 1968 年 140 分 SF 作家アーサー・C・クラークの脚本を基に、キューブリック監督が言語による説明を極力排し、徹底したヴィジュアル表現で作り上げた SF 映画の金字塔。太古の昔、人類に進化する以前の猿の一群の前に突如、黒色の立方体が出現し猿たちに啓示を与えた。そして舞台は 2001 年へと飛び、人類は宇宙で再び立方体と遭遇する。この回の授業は、作品鑑賞を主に行い、ディスカッションは次の回の前半に引き継ぐ形をとる。 6. 「キッド」 チャップリン監督 1921 年 52 分 チャップリン監督の長編第 1 作。本作でチャップリンは独自の「泣き笑いコメディ・スタイル」を確立した。放浪紳士チャーリーは、とある偶然から道端で捨て子拾い、育てることにした。5 歳に育った子供はチャーリーと二人三脚でガラス売りをして生活するが、突然二人は引き裂かれることになり…。この回の前半は「2001 年宇宙の旅」のディスカッションを行う。 7. 「独裁者」 チャップリン監督 1940 年 124 分 チャップリン監督が、第二次大戦開戦の 2 年前に、独裁政治を批判して製作開始した反戦コメディ映画。アメリカ政府・映画界・市民、ドイツ政府、イギリス政府、ソビエト政府など、あらゆる国家・組織が製作反対を訴

	<p>える中、脅迫にも負けず孤軍奮闘して作り上げた名作。架空の国トメイニアの独裁者のヒンケルと、容姿がそっくりなユダヤ人理髪師の二役をチャップリンが演じた。ラストの演説が秀逸。</p> <p>8.「突撃」 キューブリック監督 1957年 88分 ハンフリー・コップの小説を原作とした、キューブリック監督による正統派の反戦映画。主演のカーク・ダグラスは脚本に惚れ込み、自ら出資も行なった。第1次大戦の最中、敗戦確実な攻撃戦略を命じられ、撤退を余儀無くされた兵士のうち3人が、見せしめとして裁かれる戦争の不条理を描く。戦闘シーンの流麗な撮影と、極限状況での緻密な心理描写が秀逸。この回の最後に、総括のディスカッションを行う。</p>
実務経験のある教員	映画監督、プロデューサー、脚本家、撮影・録音・照明・編集技師、作曲家、ジャズミュージシャンとしての実務経験がある教員が、その経験を活かし、映画製作のあらゆる領域に関して、「創造者の立場」から映像表現の具体的手法・根幹哲学を教授する。
授業時間外学習	<p>各回の受講前に、各自で自分の得意とする分野に近似する領域を映画制作手法・表現の中に見出し、授業での作品鑑賞中に、それらの映画手法・表現の「良し悪し」について、「独自の評価基準」で「正しく判断」できるように準備しておくこと。</p> <p>また、各回での議論後に、大学図書館やレンタルなどを利用して、再度、議論素材となった映画を鑑賞して、議論内容の正当性を確認し、また、微細な映画表現の手法を学習する機会を持つことが望ましい。さらに、それらの表現手法を、自己の表現領域に転用する方法を見出すことも推奨される。</p>
評価方法	毎回ディスカッションにおいて、映画作品に対する発言の回数、内容をチェックして評価を行う。
課題・試験に対するフィードバックの方法	毎回の授業の終了前に、その授業のディスカッションの総括（まとめ）を行う。また、最後の授業で、8回のディスカッションの総まとめを行う。
使用テキスト	毎回、テーマとなる映画作品についての基礎データ等のプリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	筆記用具等
実習費	
その他	<p>本演習は不定期隔週の開講になり、日程が変則的なので必ず掲示板等で確認すること。</p> <p>本演習は、授業内のディスカッションでの発言のみを評価の対象とするので、人前で自分の意見を積極的に発言することが困難な学生は、履修を避けることが望ましい。</p> <p>本演習には、必ずしも映画制作の専門知識は必要ないが、同分野にある程度の知識がある方が、作品解釈・解析を行う上で有利になるので、学生個々人で学習するか、映像技術入門、映像コンテンツ論、身体表現論などの講義を履修しておくことを推奨する。</p>

科目名称	デッサン基礎実習 ①～⑧⑩		授業コード	10104292	
担当教員	前田 恭子、浅場 正宏、藤井 淳一				
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	芸術工学基礎/基礎表現
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期/後期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	絵画や立体表現等の基礎となる観察、構成、描画の能力及び技能を身につける。
授業の概要（内容）	絵画や立体表現等の基礎としてデッサンを、実習課題を通して習得する。具体的には、石膏デッサン、人体デッサンとクロッキー、静物と建物(風景)等を対象とした課題(水彩画を含む)に取組み、多様なデッサンに対応できる。
授業計画	1：オリエンテーション（各クラス毎の説明） 2：鉛筆による10段階のグラデーションを作成（白黒） 3：石膏デッサン（幾何学立体）立方体、四面錐体、円筒体 4：石膏デッサン（幾何学立体）球体、角柱相貫体、円錐円筒相貫体 5：石膏デッサン（幾何学立体）円筒切断体、円錐角柱相貫体 6：身体表現手を描く 7：身体表現自画像 8：人物クロッキー立ち姿 9：人物クロッキー座位姿 10：静物を描くコップ、レンガ 11：静物を描くパンチ布 12：静物を描く靴 13：建物のある風景を描く（構図を決める、輪郭を描く） 14：建物のある風景を描く（明暗を描く、仕上げ） 15：まとめ
実務経験のある教員	県立高校教員18年、県教育委員会指導主事6年、県立美術館指導主事2年、県立高等学校管理職10年(内、特別支援学校5年を含む) 高等学校では美術・工芸教員及びデザイン科教員として教鞭をとる。県教育委員会では、文部科学省と連携を図り、県立高校美術教員に対する指導や研修を担当。また、県立美術館においては、多様な校種の美術科教員と連携し、美術館の活用を推進、その普及に努めた。その実務経験を活かし、美術科教育に必要な基礎的な知識やデッサン等の基礎的な実技指導を行う。
授業時間外学習	授業内でデッサンやクロッキーが完成しない場合、また、欠席した場合の課題については、提出日に間に合うよう自主的に進めておく。
評価方法	課題の理解度・作品の表現方法及び完成度による総合評価。課題を全て提出しない場合、出席が10回に満たない場合はE評価となる。
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業前半で技術的な課題を見つけ、授業後半で、その修正を図る。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	適宜指示
各自準備物	スケッチブック（初回指示する）他、作品制作に必要な画材一式
実習費	すでに所持している場合はよいが、ないものについての購入を予定すること。 また、特別な用紙代等について、500円～1,500円程度を徴収する予定である。
その他	コロナ対応や指導上、人数制限を行うので、初回授業には、必ず出席すること。 教職を履修予定する一年生は、教職ガイダンスの説明をよく聞いて、必ず優先的に受講すること。

科目名称	デッサン基礎実習 ⑨(M)			授業コード	20904292
担当教員	工藤 稜				
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	芸術工学基礎/基礎表現
年次	1	開講年度	2021	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	規定人数を超えた場合、まんが表現学科学生を優先。
授業の目的と到達目標 (学習成果)	人物のポーズや表情を様々なアングルから描き、キャラクターを作画するための基本的描写力を身につける。
授業の概要 (内容)	骨格や筋肉の構造について学習し、身体の構造を単純な形態に置き換えて描く練習し、顔や頭部の構造を理解して描写し、プロのモデルを前にしてポーズを描き出す。 これらを繰り返し、キャラクターのポーズ表現に自然な奥行きを持たせる事が目標である。 #イラスト1 #作画 #アナログ
授業計画	1 導入 2 全身の描き方 3 顔の描き方 4 クロッキー女性モデル 5 クロッキー男性モデル 6 顔の描き方2 7 骨格と筋肉について 8 全身の描き方2 9 クロッキー女性モデル 10 クロッキー男性モデル 11 クロッキー女性モデル 12 クロッキー男性モデル 13 クロッキー女性モデル 14 クロッキー男性モデル 15 総合復習
実務経験のある教員	教員が長年のイラストレーター経験から会得した、コミックイラストに適したデッサンの描き方を指導する。
授業時間外学習	
評価方法	1) 授業への取り組み姿勢を 50%、課題提出を 50%で判断する。
課題・試験に対するフィードバックの方法	
使用テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	B4 サイズのクロッキー帳、鉛筆、練りゴム、使い慣れた画材 (筆ペン、マーカーなど)
実習費	
その他	

科目名称	絵画基礎実習 ①～④	授業コード	10104522
担当教員	藤井 淳一、浅場 正宏		
単位数	2	授業形態	実習
年次	1	開講年度	2021
関連資格	教職	科目分類	芸術工学基礎／基礎表現
		開講学期	前期

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	
履修制限等	「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	描くための基本的な能力を身につける。
授業の概要（内容）	芸術表現の基礎として素描を実習課題を通して習得する。具体的には、人物デッサンを中心に、表現手段としての多様な素材(木炭、水彩、色鉛筆、サインペン、コンテ等)を理解し応用することで、多様な素描に対応できる。
授業計画	1：授業の進め方と人物表現について 2：クロッキー鉛筆 3：クロッキー筆ペンなど 4：クロッキークレパス、コンテ、色鉛筆など 5：色画用紙と色鉛筆によるデッサン（自画像1形態の把握） 6：色画用紙と色鉛筆によるデッサン（自画像2マツと明暗） 7：木炭デッサン（石膏像1あたりによる形態の把握） 8：木炭デッサン（石膏像2明暗の把握と大まかな諧調） 9：木炭デッサン（石膏像3ディテールへの挑戦） 10：クロッキー鉛筆 11：クロッキー筆ペンなど 12：クロッキークレパス、コンテ、色鉛筆など 13：精密デッサン鉛筆（無機物を対象） 14：精密デッサン鉛筆（有機物を対象） 15：まとめと講評
実務経験のある教員	県立高校教員18年、県教育委員会指導主事6年、県立美術館指導主事2年、県立高等学校管理職10年(内、特別支援学校5年を含む) 高等学校では美術・工芸教員及びデザイン科教員として教鞭をとる。県教育委員会では、文部科学省と連携を図り、県立高校美術教員に対する指導や研修を担当。その実務経験を活かし、美術科教育に必要な基礎的な知識やデッサン等の基礎的な実技指導を行う。
授業時間外学習	授業外でも身の回りのもの全てに興味関心を持ち、様々なものを描くこと。
評価方法	課題の理解度・作品の表現方法及び完成度による総合評価。課題を全て提出しない場合や出席が10回に満たない場合はE評価となる。
課題・試験に対するフィードバックの方法	
使用テキスト	
参考テキスト・URL	適宜指示
各自準備物	スケッチブック（初回指示する）、鉛筆（4H～4B）、筆ペン、色鉛筆、パステル、コンテ、木炭など
実習費	すでに所持している場合はよいが、ないものについての購入を予定すること。また、特別な用紙代等について500円～1,500円程度を徴収する予定である。
その他	コロナ対応や指導上、人数制限を実施するので、初回授業には、必ず出席すること。 教職を履修予定する一年生は、教職ガイダンスの説明をよく聞いて、優先的に受講すること。

科目名称	彫刻基礎実習		授業コード	10004312	
担当教員	笹谷 晃生				
単位数	2	授業形態	実習	科目分類	芸術工学基礎／基礎表現
年次	1	開講年度	2021	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー				

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール					
履修制限等	教職課程履修者に限定する。教室の条件から定員を 24 名とする。上級生を優先し、必要に応じて抽選を行う。初回到正当な理由なく欠席した場合は履修を認めない。				
授業の目的と到達目標（学習成果）	スタイロフォーム、粘土、石膏などの造形材料の特性と扱い方を理解し、基礎的な彫刻表現を理解する。立体やレリーフによる塑像を通して基礎的な彫刻表現ができる。				
授業の概要（内容）	素材は立体物の造形でよく使用され汎用性が高くどこでも手に入れやすい粘土やスタイロフォームを用いる。モチーフには、身の回りにあり手に入れやすい植物や日用品などの中から造形的に美しい形や量感を持つものを選び、実際に写実的な作品を制作することによって立体的な彫刻表現を学習する。またレリーフについては石膏による型取りなどを通して、その特色、用途、役割などの理解を深める。				
授業計画	1：イントロダクション 2：【立体作品の制作】モチーフのスケッチ 3：芯の制作／粘土下地 4：盛付け／全体の成形 5：部分の造形 6：細部表現 7：修正 8：研磨 9：完成 10：【レリーフの制作】粘土による原型制作（全体の成形） 11：粘土による原型制作（細部表現） 12：雌型制作 13：雄型制作 14：仕上げ 15：講評				
実務経験のある教員	担当教員は独自の構想で彫刻を制作し、画廊企画による数多くの個展で作品を発表している。その豊富な経験を生かして、作品の構想、材料の知識と扱い方、彫刻表現についての具体的な教育を行っている。				
授業時間外学習	作品の構想や制作で、参考となる書籍や資料を参照する。				
評価方法	提出作品を 80%、授業態度や課題に取り組む姿勢を 20%の割合で評価する。 3 分の 2 以上の出席を評価対象とする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	作品の講評				
使用テキスト					
参考テキスト・URL	立体造形を学ぶ／京都造形芸術大学編／造形社、 https://www.youtube.com/watch?v=UoVGpqw_aHo				
各自準備物	汚れても良い服装、鉛筆デッサン用具、物差し、カッターナイフ、タオル、マスク。 (その他に持っていれば、コンパス、三角定規)				
実習費	1,000 円程度				
その他					